
魔装機神外伝 ~ プレシア負けないモン ~

にやうん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔装機神外伝 　　く　プレシア負けないモン　　く

【Nコード】

N4417Q

【作者名】

にゃうん

【あらすじ】

魔装機神の世界観とキャラを使用した二次小説となっております。ゲーム本編とは違い、戦争物ではなく平和な学園物です。プレシアの萌えラブストーリーで床の上を萌え転がりたいヤツはカモン！！w

私プレシアⅡゼノサキス。

マサキお兄ちゃんラブ（はあと）で元気な中学一年生の12歳お父さんとお兄ちゃんとの3人暮らしなんだ！

第一話 『ライバル出現だもん』（前書き）

このSSは、漢の浪漫を元に書かれていますw
ゲームとは登場人物の設定がだいぶ違っていますのでご注意ください。

第一話 『ライバル出現だもん』

魔装機神外伝 ㄱプレシア負けないモン ㄱ

第一話 『ライバル出現だもん』

ここは地底世界ラ・ギアス。地球の内部にあるけれど、やっぱり朝はやってくる。

トントン、ジューツ。

によよー っと、これで出来上がりっ！

んっと、うん。美味しい 今日朝食もばっちりね！

さて、そろそろお兄ちゃん（はあと）を起こさなくちゃ

私プレシアㄱゼノサキス。

マサキお兄ちゃんラヴ（はあと）で元気な中学一年生の12歳

お父さんとお兄ちゃんとの3人暮らしなんだ！

お母さんは、私が5歳の時に天国に行っちゃったけど、

優しいお父さんとお兄ちゃんが居るから寂しくないもん

あ、お兄ちゃんっていつても、本当の兄妹じゃないんだよ。

んとね、お兄ちゃんの両親とお父さんは昔からの親友で、
家族3人で昔からよく家に遊びに来てたの。

二人とも兄弟が居ないせいか、いつも本当の兄妹みたいに遊んでたんだ

だけど2週間前、おじさんの仕事の都合で、急に転勤することになったの。

転勤先はここからとても遠くて、お兄ちゃんが通学するのはとても無理だし、

あと1年で高校を卒業だからって、お父さんが家に来るように薦めたの。

そんなこんなで、私とお兄ちゃんの甘い同棲生活(きゃっ(が

始まったの(はあと) あ、お父さんも居たっけ(^^)

『お兄ちゃん！朝だよー！起きてー！！』

部屋の前で呼んでみても全然起きる気配がないよ。

ガチャ。

『朝ー、朝だよー！朝御飯食べて宮殿行くよー！』

『・・・エーテルちゃん台返しだー。グー・・・』

ドアを開けて呼んでも全然駄目。

むー。こうなったら実力行使ね！

お兄ちゃんの耳元に近づいて、大きく息を吸い込んで・・・

『起きろー！ー！ー！』

『ぐあっ！・・・プレシアか・・・いつもながら心臓に悪い起こし方だぜ。』

『クスクス。お兄ちゃんおはよう　目、覚めた（はあと）』

『・・・んにゃ、いつものアレがなくちゃ、完全に目が覚めないなー（ニコリ）』

『え？あ、うん。お兄ちゃん、お・は・よ・う（はあと）』

チュツ！

そう。お兄ちゃんは私がほっぺにキスしないと絶対起きてくれないんだ。

大好きなお兄ちゃんのお願いだけど、恥ずかしい物は恥ずかしいんだよー。

ほら、心臓のドキドキは止まらないし、頬も熱いの。赤くなってるのが分かるよ。

『ん。おはようプレシア！・・・いつはお返し！』

チュツッ！

と言って、お兄ちゃんは素早く私のほっぺにキスしたの。

カァーッ！瞬間湯沸かし器のように顔中真っ赤になるのが分かる。

『さてさて、朝御飯ーっ』

そう言うと、お兄ちゃんは先に部屋を出て行ってしまった。

私は突然の出来事に、何も反応することが出来なかった・・・

はにゃん。心臓のドキドキは聞こえるくらいすごいし、体中も燃えるように熱いよ・・・。

『はづううー、やっぱり恥ずかしいよー』

と、言いつつ私の顔は、にへらーっと笑っていた。

まるで新婚さんみたいだね（はあと）もちろん私がお嫁さんで、お兄ちゃんが・・・

（妄想中）

『じゃ、行って来るよ』

『もう！あなただったら、いつものアレ忘れてるよ（はあと）』

『クスッ。ごめんごめん、プレシア愛してるよ……』

チュッ

新婚さんのお兄ちゃんと私は、「行って来ます」と「ただいま」の時にはいつもキスをするの……

・・・それで、それでね　きゃっ！いやんいやん（はあと）

10分後、マサキが呼びに来るまでプレシアの妄想は続いていたという（笑）

『行ってらっしゃーい！』

二人を送り出した後は、朝食の後かたづけをしなくちゃ。

ふにゆう。学校に行く前に色々することがあって大変だよ！。

でも！愛するお兄ちゃん（はあと）の為に頑張らなくちゃね

お父さんは二の次だけど（^^）

で、なんだかんだで日が暮れて……

『ふう。すっかり遅くなっちゃた。大会が近いからしょうがないか。

』

あ、私ね、テニス部に入ってるんだ　まだまだ補欠なんだけどね。

』あつ
』

今日の晩御飯の献立を考えながら歩いてると、

少し先にお兄ちゃんが歩いてるのが見えたの。

』お兄ちゃん、おつかえりー
』

そう言いながら、お兄ちゃんの中身に抱きつくの（えへ）

』おおっと！プレシアか。まったく、驚かすなよな。で、今帰りなのか？
』

』えへへー。お兄ちゃんの姿が見えたから、一緒に帰ろうと思って。

あ、うん。部活が長引いちゃってこんな時間なんだ。』

と、言いながら私は背中から離れて、腕に手を絡めた。

』んじゃ、一緒に帰るか。』

』うん！（はあと）
』

・

・

『ただいまー。さ、入って。』

ちょうど夕食の準備が終わった時、お父さんが帰ってきた。

『お父さんお帰り・・・って、あれ？テューデイさんにウエンデイーさん！?』

『こんばんわー×2』

『こんばんわ。お父さんと一緒なんて、何かあったの?』

『すまないがマサキを呼んできてくれないか?』

『うん』

何があるのか分からないけど、お兄ちゃんを呼びに言ったの。

『んー。何だよ・・・って、あれ？おまえらどーしたんだ?』

『あー！マサキさんこんばんわ』

『おう。相変わらず二人とも美人だな。』

ウエンデイー：『え?・・・そ、そんなことないよ・・・。もう、マサキ先輩ったら・・・』

テューデイ：『クスッ。ウエンデイー、顔が真っ赤よ』

お兄ちゃんの鼻の下延びてるよ……。うー。何だか面白くない……。

『ちょうど夕食の準備も終わってるみたいなので、食べながら話しましょうか』

あ、テューデイさんとウエンディーさんは、双子の姉妹で共に高校1年生の15歳。

お兄ちゃんと同じ高校に通ってるの。

お父さんの友達、サークさんの娘さんで、家が近所ってこともあって昔からよく遊んでたんだ。

うちと同じで、お母さんが早くに亡くなってるの……。

テューデイさんは物静かで、ちょっと大人っぽくってすごく綺麗な人なの。眼鏡も似合ってるし。

ウエンディーさんは、いつも明るくてとっても笑顔が似合う人。

何かいつもお兄ちゃんにからかわれてるみたいだけど（汗）

二人とも、ウエーブのかかったロングヘアが似合う美人さんなの。

お兄ちゃんとも、とっても仲が良いんだ。

『実は、私と彼女らの父親の二人で、一ヶ月ほど出張することに

なってしまったんだよ。で、お互いに子供だけでは心配だから、

二人で話し合って、頼りになるマサキもいる私の方には彼女らを、
帰ってくるまで住まわせることにしたんだ。』

『急に言われてもなー。まあ、俺は良いけど。で、当の二人はそれでいいのか?』

『マサキさんとプレシアちゃんが迷惑でなければ、喜んで。』

『先輩とプレシアちゃんが迷惑じゃなければ賛成よ』

と、二人。私ももちろん賛成したの。

二人とも昔から本当のお姉ちゃんみたいに思ってたからね。

『二人ともありがとう。さて、私は明日早いので失礼させて貰うよ。』

そう言って、お父さんはお風呂へと行ってしまった。

『んじゃ、まあ。これからはらくの間よろしくな!』

『よろしくね!お姉ちゃん達』

『こちらこそお世話になります。プレシア、それとマサキお兄様^{お兄様}』

『色々迷惑かけちゃうかもしれないけどよろしくね

プレシアに先ぱ・・・じゃなくて、おにーちゃん（はあと）』

『お、おう！任せとけ！』

うー。お兄ちゃんてば、二人に『お兄ちゃん（はあと）』って言われて

我が生涯に一片の悔い無し！って顔してるよ・・・ふんっだ！

ふう。テューデイさんと、ウエンディーさんか・・・

二人ともお兄ちゃんのこと大好きだからなー。

強力なライバル出現だよお（泣）

でも、プレシア負けないモン

続く

第一話 『ライバル出現だもん』（後書き）

ふう。やっと書き終わりました魔装機神プレシアSS第一話いかがでしたか？

こういう形で小説を書くのは初めてだったので、
至らない点があるとは思いますが、大目に見てやって下さいませ）

^^）

感想等頂けるととても嬉しいです。

では。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4417q/>

魔装機神外伝 ~ プレシア負けないモン ~

2011年2月6日09時58分発行